


健康登山51:周辺の山24 (湖南アルプス 堂山)

コース	新免バス停 0.7km/12 古墳群 0.6km/10 新宮神社 1.3km/ー 分岐 0.3km/ー 堂山 0.3m/ー 分岐 0.9/20 鎧ダム砂場 0.3km/16 鎧ダム堰堤 0.7km/15 迎不動 2.0km/30 アルプス登山口バス停		
水平距離	7.1km	断面図 縦軸: 高度m 横軸: 距離km	
水平換算距離	・・・km		
累計高低差	登り331m、下り312m		
標準歩行時間	・・・		
実績歩行時間	4:12		



山行報告

山行日 2009・10・1(金) 天候 晴れ 参加者 6名

石山駅9:30 新免バス停10:04 古墳群10:20 新宮神社10:28 分岐11:57 第2ピーク12:15~12:46 堂山13:04 分岐13:42 鎧ダム砂場14:09 鎧ダム堰堤14:32 迎不動15:03~15:29 アルプス登山口バス停15:54 石山駅16:18

記録

停滞していた秋雨前線が南下して、束の間の晴れ日に恵まれたのはラッキーだった。周辺の山として先月の金勝アルプスに続いて湖南アルプスの堂山に登ることにした。石山駅から帝産バスに乗り新免バス停で降りると、南に見える岩山が堂山である。バス停前に堂山・鎧ダムを示す道標があり『自然の道・歴史の道』と書かれている。堂山へは300m程東へ歩き西性寺前を右折するのだが、少し直進して新免古墳群を見に行ったら、元に戻り南へ進むと新宮神社があり、ここが登山口である。登山道は尾根筋につけられていて、随所に湖南アルプス独特の露岩帯があるので琵琶湖方面の展望はよいが、道は風化していて滑りやすいので要注意。やがて新免と堂山と鎧ダムの分岐点に着く、ここから堂山へ往復することになる。分岐点に琵琶湖河川事務所の方がつくられた新免・堂山・鎧ダムの三方向を示す道標が路面に固定されているのが面白い。堂山の山頂には三つのピークがあり、どのピークからでも360度の景色が見られる。私たちは二つ目のピークで眺望を楽しみながら昼食をした。食後、ロープを使って稜線を直進したが、南側の巻き道を歩く方が無難である。堂山山頂で集合写真を撮って分岐点に戻った。分岐から鎧ダムへ向うのに20mほど下り、登り返すことになる。この辺りから見る堂山の姿がまたすばらしい。堂山と別れて道が樹林帯になると間もなく天神川ダムへの分岐があるが鎧ダムへ向う。忽然と広大な砂場が現れる、これが鎧ダムである。砂で埋め尽くされた上を5、6分歩くと鎧ダム堰堤に着く。明治22年に造られたもので文化財的価値があるそうだ。ダムから沢沿いの道を下り天神川と合流した地点が東海自然歩道の迎不動である。ここでバスの時間調整をした。アルプス登山口15:55、石山駅16:22、京都駅16:36着。水平換算距離に基づく歩行時間算定は岩尾根歩きには適さないの使っていない。

周辺の山（湖南アルプス 堂山）



新宮神社
10:28



堂山への登り
11:06



急坂を登る
11:48



分岐点の道標
11:57



堂山頂上にて
13:03



頂上から見た
比叡山方面
13:07



堂山
13:48



鏡ダムの砂地
14:26



鏡ダムの堰堤
14:32



迎不動前の道標
15:29

名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：湖南アルプス 堂山）

参考資料 ホームページ他より

◎ 新免の地名(大津市上田上新免町)：税の一部の減免が許された田を「免田」と言い同一地域内に複数の免田ができると、区別のため新しいものを「新免」と呼ぶようになった。

「免田」とは古代から中世にかけ、規定の課税を免除する田地。国や荘園領主に対して、官物雑役や年貢公事のうち雑役、公事を免じられた田地をいう。全国に数多くあったが、太閤検地ですっかり姿を消した。

新免の地名が現存するのは、岡山県2、広島県2、熊本県1、宮城県1で、豊中市にS39年まで新免の地名があった。

京都では山城国桂新免、山城国深草新免(安楽寿院領)が記録されている。

【新免氏】赤松氏の一族、室町中期以後、美作国吉野郷に住し勢力をふるった。

赤松氏は外孫貞重を養子に迎え貞重の実父が新免氏であるので新免伊賀守(宇野三郎)を名乗る。

新免氏は、地名から転化したものでなく、1348～1360の間に崇光天皇から藤原北家徳大寺実孝の子大納言の子則重のとき、勅免を得て新免姓を賜り、初代になったという。また足利義詮から美作国粟井庄等を賜っている。新免姓は岡山県に多いそうですが、現存する各地の「新免」で新免姓を調査したところ「新免姓」は存在しなかったそうです。

新免氏は宮本武蔵と関わりのあった家として有名。宮本武蔵の母は貞重の孫娘の子で父親(養父とも考えられている)は剣豪新免無二。兵法家宮本無二斎藤原一真と同一人物とする研究者が多いそうです。

武蔵の五輪書では、新免武蔵守藤原玄信を名乗っている。

名字は宮本(または新免)、通称は武蔵、本姓は藤原、諱は玄信、号は二天。武蔵死後に養子伊織が9年後に建てた碑文は「新免武蔵玄信二天居士碑」。

◎ 新免古墳群：新免集落東南東の外れの吉祥寺川沿いに、古墳時代の横穴式石室の円墳11基がある。林道沿いに2基の円墳が並んでいるのが確認できる。

手前の1号墳は15m円墳で山の神が祭られ、別の2号墳は、12m円墳で横穴石室が開口している。玄室2.3m、幅1.3m、高さ1.3m。

林の中に他の円墳が密集しているが草木が生い茂り、低いマウンドが確認できる程度ようです。

【新免古墳群の碑】昭和55年に建立された。高さ1m。

【新免町守り神】昔は青年(20歳)になると大和大峰山に参拝した。その前後

に摩崖仏(新免不動明王)を収めたお堂で経を唱え、身を清めた。
お堂の中は見えない。

【新免町山の神】地域の行事として欠くことのできない存在。

山の神としての信仰を知ることができる。

新免古墳群に祭られている。

- ◎ 田上、^{かみたなかみ}上田上の遺跡：県道 108 号線(南郷桐生草津線)沿いバス路線のバス停「里、枝、森、羽栗、新免」の約 2 km の間に、古墳、城跡などがあります。

【藤が森】須賀神社の御旅所。先祖が故あって藤原氏であることを隠さなくなつて、密かに多くの藤の木を植えて、森を造り子孫に伝えようとしたと言われている。毎年 5 月頃になると藤の花が咲き、遠くからでもその景色が窺えることができるという。(新免 B 停から 150m 南西)

【^{はぐり}羽栗城跡】平城で中野氏居城。信長により落城。(田上羽栗 3 丁目)

京都平野社の代官中野氏がこの一帯の領主。

上田上中野町(田上車庫)の^{あらと}荒戸神社辺りにあった中野城を移したともいわれる。荒戸神社は田上郷一帯の総鎮守社、田上の一の宮であった。

天智天皇が田上に牧を置いたときに鎮座。(祭神：天児屋命、素盞鳴命)

【森城跡】中世山城。「腰が城」が関連地名(田上森 3 丁目、羽栗城から 250m)

【^{じょうがだけ}城ヶ岳城跡】山麓にあった羽栗城の出城(新免町、堂山登山道の小ピーク)

【羽栗古墳群】(田上羽栗 2 丁目/3 丁目、森 2 丁目/3 丁目辺り)

【枝古墳群】円墳 3 基、横穴式石室(田上枝町 3 丁目/森 3 丁目辺り)

【針の木古墳群】円墳 4 基、横穴式石室(枝 3 丁目/4 丁目、田上公園辺り)

公園隣にある低い丘陵地、12m の円墳墳丘はほとんど流失し、玄室はかろうじて残っている。(枝、針の木合わせて 7 基)

【里古墳群】古墳時代(里 5 丁目/枝 4 丁目、田上小学校辺り)

【田上城跡】里城。室町期城跡、田上氏、多羅尾氏の居城。空堀残存。(里 5 丁目)

- ◎ 新宮神社(新免)：祭神は^{はやたまのおのみこと}速玉男命。創建年代不詳、熊野新宮社から勧請されたと考えられている。境内に樹下神社がある。堂山登山口にもなっている。

- ◎ 須賀神社(羽栗)：祭神は^{たけはやすきのおのみこと}建速素盞鳴命。創建年代不明。集落の背後の丘陵に鎮座。羽栗、森、堂の各村の総社であった。神社の宮山から江戸期に石棺が掘り出されている。神社裏から堂山への登山道がある。

【羽栗】羽栗村は菰野藩の分領地であった。土方氏が家康から 1200 石を与えられ 1 万石が伊勢国に 2000 石が近江の国にあり、明治まで続いた。

- ◎ 天満神社(枝集落)：集落の東の山麓に 1124 年源俊頼が勧請。一説では佐々木氏の建立とも伝える。菅原道真が主祭神。

- ◎ 田上山の砂防植栽：田上山の各所で行われている。はげ(禿)山や崩壊地に植生を施すことによって、表土の風化、浸食、崩壊の拡大を防ぐため、クロマツとヒメヤシャブシ(ハゲシバリ)を 1 本対 2 本の割合で混植している。ヒメヤシャブシは樺の木科の落葉広葉樹でやせ地でもよく育つという。
西川作平(1892～1918)が荒廢地に最適のハゲシバリを発見。龍池籐兵衛(1840～1896)ヒメヤシャブの培養、育種法を確立させ、大量生産の途を開いた。

- ◎ 松茸が自生：田上山系の田上、金勝、信楽では赤松林を中心に松茸が自生する。
この時期登山道は規制されることがある。近年は収穫が減少している。

- ◎ 田上公園：天神川の下流、谷口橋から天神橋にかけて護岸整備され両岸一帯となった公園となっている。

- ◎ 田上山の隕石：日本で落下した隕石で発見された中で最も重い隕鉄。
1885 年田上山で発見 175 k g ある。東京国立科学博物館入口に置かれている。

- ◎ 田上山の晶洞^{がま}：岩石や地層の中に出来た鉱物の結晶が産出された空洞を晶洞(がま)という。田上山の中沢洞は、人が 5 人も入れる大きなものであったという。
砂防の植林が進み花崗岩の地肌の露出が減り晶洞の発見は少ない。
明治年間トパーズの産地として 7～8 t が採掘され海外に送り出された。
地質学者ナウマンが田上山で採取した標本の多くが大英博物館に収められている。

- ◎ 田上山のサギソウ：田上山各所の湿地に生える高さ 20～50 センチのラン科の多年草。
7～8 月に直径 3 センチ前後の白い花を数個つけ、唇弁が白サギの羽を広げたような形になる。田上山では堰堤推砂地の湿地などで見られる。

- ◎ 田上の米：田上盆地は古くから良質のコメの産地「田上米」として知られる。
田上山で多く産した水晶にちなみ「水晶米」の呼び名が名高い。
京都の木屋町や先斗町の料亭などでは「寿司米」として好評であった。

伏見では「酒米」として名が通っていた。

- ◎ 鎧ダム : 大戸川支川の天神川若女谷にある防砂ダム(割石積堰堤)で、明治 22 年(1889) オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケの指導のもとに、内務省土木局技術者の田辺義三郎が設計して造られた。石積 11 段の階段状で、花崗岩の階段状石積が鎧に見立て名がついた。階段状の石積は越水流の勢いを和らげ水叩き部の洗掘を防止する効果がある。〔国指定重要文化財に指定される動きがある〕堰堤の竣工後、しばらくは池ができ「阿弥陀池」と呼んでいたという。現在は推砂が満ち、奥の深い広場「阿弥陀河原」になっている。堰堤のすぐ下流に昭和 35 年、新鎧堰堤(コンクリート製)が設けられている。

- ◎ ヨハネス・デ・レーケ : (1842~1913)オランダ人。明治 6 年(1873)明治政府の招きで来日。内務省技術顧問河川技術者として、治山治水工事に従事した。1903 年離日するまで 30 年間、各地の河川改修、防波堤、砂防工事の企画設計の指導にあたった。砂防堰堤や防波堤は日本各所に現存している。帰国にあたり功績を称え、勲二等瑞宝章を日本政府は贈っている。

【木曾川下流三川分流】下流で木曾川と長良川の間に背割り堤を築いて川を分け 10 年かけて成功させた。

【オランダ堰堤】設計田辺義三郎。草津川上流(草津上桐生町、金勝アルプス口)長さ 37m、高さ 7m、17 段石積。100m 下流に副堰堤がある。(長さ 34m、高さ 1,4m)

【デレーケ堰堤】京都府山城町。明治末期までの三上山さんじょうさんの禿山を緑にした。

- *加茂町みかのはら瓶原海住山寺境内西に(明治 11~20 年)日本最初の近代石積堰堤。
- *山城町不動川上流。昭和 28 年の南山城水害のとき堰堤の一部は崩れたが、災害の拡大を食い止めた。

【淀川の改修】淀川ワンドを造る。大阪港の築港。

- ◎ 迎不動堰堤 : (新オランダ堰堤)平成 12 年に日、阿蘭陀友好 400 周年記念行事として完成。